

Dual Language: Japanese/English

2019年11月26日  
メットライフ生命保険株式会社

## メットライフ生命「『老後を変える』全国47都道府県大調査」

メットライフ生命保険株式会社(代表執行役 会長 社長 最高経営責任者 エリック・クラフェイン)は、全国47都道府県の20歳~79歳までの男女14,100人を対象に、「老後」に関する調査を実施し、その結果をまとめましたのでお知らせします。

本調査は、昨年と同規模で実施したもので、2回目となる本年は、特に「老後」「資産」「健康」について、年代間や男女間での意識や傾向の違いと、都道府県別の「老後への意識」に焦点をあてました。また今回の調査には、がんへの罹患をご経験の方、現在介護中もしくは過去に介護をご経験の方にもご協力いただきました。

当社は、お客さまが健康で豊かな老後を過ごせるよう、そして誰もが明るく豊かな老後を思い描くことができるよう「老後を変える」というテーマのもと、さまざまな取り組みを行っており、本調査はその一環として実施したものです。

### 調査結果まとめ

#### <全国版>

##### 【老後への意識】(詳細:3~4ページ)

- 全調査対象者(14,100人)の8割以上が、老後に対する不安を感じている。
- 20代~40代で、昨年に比べ「両親の介護」への不安が高い。

##### 【資産への意識】(詳細:5~7ページ)

- 昨年と比べ、20代~50代で「資産運用意向」の割合が高い。
- 「資産運用意向」の伸びが大きかった20代~30代女性は、「現在資産運用中」には変化なし。
- 金融資産の使い道は、全年代で「老後の生活費」が最も高い。

##### 【健康への意識】(詳細:8~16ページ)

- 「怖いと感じている病気」は、「がん」が最も高く、次いで「認知症」。
- 「がん」の罹患をご経験の方に不安要因を聞くと、「治療費の負担」、「日常生活を問題なく送れるサポートが得られるか」、「精神的な負担」、「最適な治療法を選ぶことができるか」。
- 30代~40代男性の約3割が、「早期発見・早期治療によって認知症の進行を遅らせることができる可能性がある」と知らなかった」と回答。
- 「自らの介護費用の準備をしていない」のは、7割以上。300万円以上準備できている方は16%。
- 約7割が自らの両親の介護に不安あり。そのうち「親の介護費用を準備している」のは約16%。

#### <都道府県版>

##### 【老後への意識】(詳細:17ページ)

- 老後への不安要因は、都道府県別に違いあり。

〈添付〉

## メットライフ生命 『老後を変える』全国 47 都道府県大調査

### 〈目次〉

#### 調査結果

#### 〈全国版〉

##### ■ 【老後への意識】(対前年比較)

- (1) 老後に対する不安……………P3
- (2) 老後に対する不安要因……………P4

##### ■ 【資産への意識】

- (3) 資産運用……………P5-6
- (4) 金融資産の使い道について……………P7

##### ■ 【健康への意識】

- (5) 怖いと感じている病気について……………P8
- (6) がんにかかった場合の不安要因について……………P9
- (7) がん検診受診経験について……………P10
- (8) がん検診を受診していない理由……………P11  
「ご参考」がん検診について
- (9) 認知症について……………P12
- (10) 介護について……………P13
- (11) 自らが介護状態になった時の介護について望むこと……………P14  
「ご参考」介護に関する不安について
- (12) 自らの介護費用の準備状況について……………P15-16
- (13) 自らの親の介護費用の準備状況について……………P17  
「ご参考」介護期間と介護費用について

#### 〈都道府県版〉

##### ■ 【老後への意識】

- 47 都道府県別、老後に対する不安要因……………P18

#### 調査概要

1. 調査対象：全国 47 都道府県に在住<sup>(※2)</sup>の 20 歳～79 歳の男女を、各都道府県で性・年代別に各 30 人ずつ(60 歳～79 歳は合算)合計 14,100 人
2. 調査方法：インターネット調査
3. 調査数： 14,100 人
4. 調査時期： 2019 年 8 月

※スコアは集計時に各都道府県の性年代の人口動態の構成比に合わせて、ウェイトバック集計を行っています。

※集計データの構成比(%)は小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%にならない場合があります。

※提示しているスコアについては、四捨五入の関係上、足し引きした場合に数値が増減する場合があります。

## 【老後への意識】＜対前年比較＞

### (1) 老後に対する不安

「自らの老後について不安を感じるか」という質問に対しては、全体（14,100人）では8割以上（81.5%）が不安を感じている（不安がある・やや不安があると回答）。

年代を重ねるごとに不安度は上がり、40代が最も高く（87.1%）、その傾向は前年と同様であった。対前年比で全体の傾向は変わらないものの、40代を除く50代以下で、若干不安度が高くなり、60代以上では不安度が下がる傾向が見られた。（表1）

（表1）「自らの老後について不安を感じるか」

	老後への不安がある・ややある		
	2018	2019	対前年比
全体(14,100人)	81.7%	81.5%	-0.2
（性別）			
男性	79.3%	79.7%	+0.4
女性	84.0%	83.3%	-0.7
（年代別）			
20代	83.1%	84.1%	+1.0
30代	86.2%	86.8%	+0.6
40代	87.6%	87.1%	-0.5
50代	85.9%	86.9%	+1.0
60代～70代	73.6%	72.1%	-1.5

## (2) 老後に対する不安要因

(表 1)で示したとおり、対前年比で老後に対する不安度の全体の傾向は変わらないものの、(表 2)で示すとおり、老後に対する不安要因の順位には、各年代で変化があった。

対前年比で見ると、20代～40代で、「両親の介護」に対する順位が対前年比で高い傾向が見られた。

(表 2)「老後に対する不安要因(複数回答可)」

20代		30代		40代		50代		60代～70代	
2018	2019	2018	2019	2018	2019	2018	2019	2018	2019
1. お金	1. お金	1. 健康	1. 健康						
2. 認知症	2. 認知症	2. 健康	2. 健康	2. 認知症	2. 認知症				
3. 自らの介護	3. 健康	3. 認知症	3. 両親の介護	3. 認知症	3. 自らの介護	3. 認知症	3. 認知症	3. 自らの介護	3. 自らの介護
4. 健康	4. 両親の介護	4. 自らの介護	4. 認知症	4. 自らの介護	4. 両親の介護	4. 自らの介護	4. 自らの介護	4. お金	4. お金
5. 両親の介護	5. 自らの介護	5. 両親の介護	5. 自らの介護	5. 両親の介護	5. 認知症	5. 配偶者の介護 5. 両親の介護	5. 両親の介護	5. 配偶者の介護	5. 配偶者の介護
6. 配偶者の介護	7. 終活	6. 配偶者の介護	6. 終活	6. 終活					

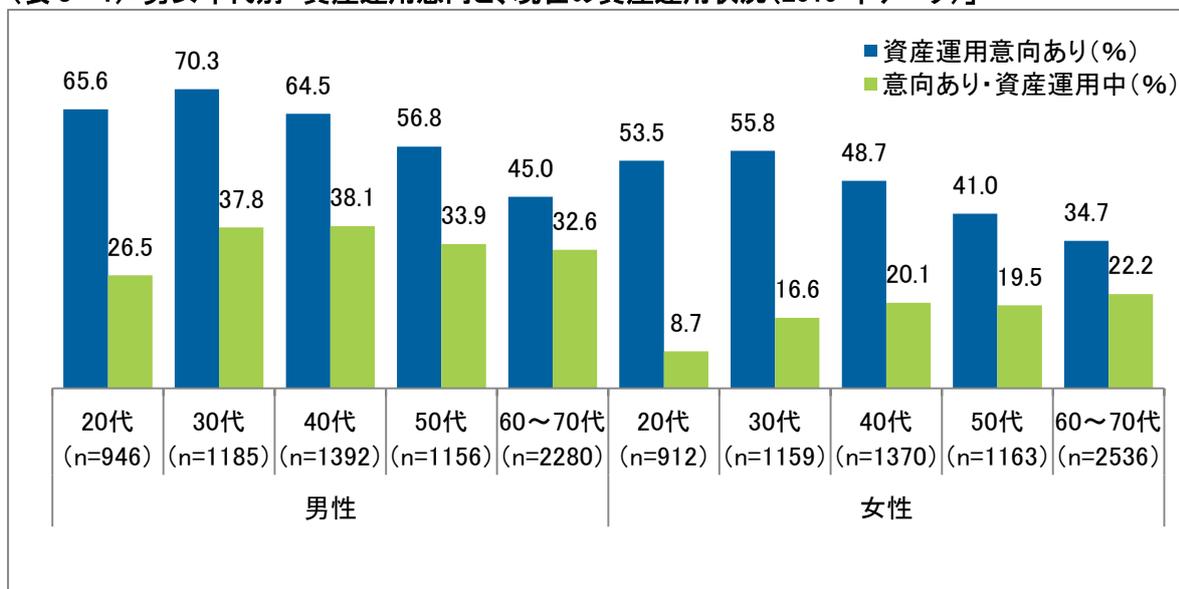
## 【資産への意識】

### (3) 資産運用意向 <対前年比較>

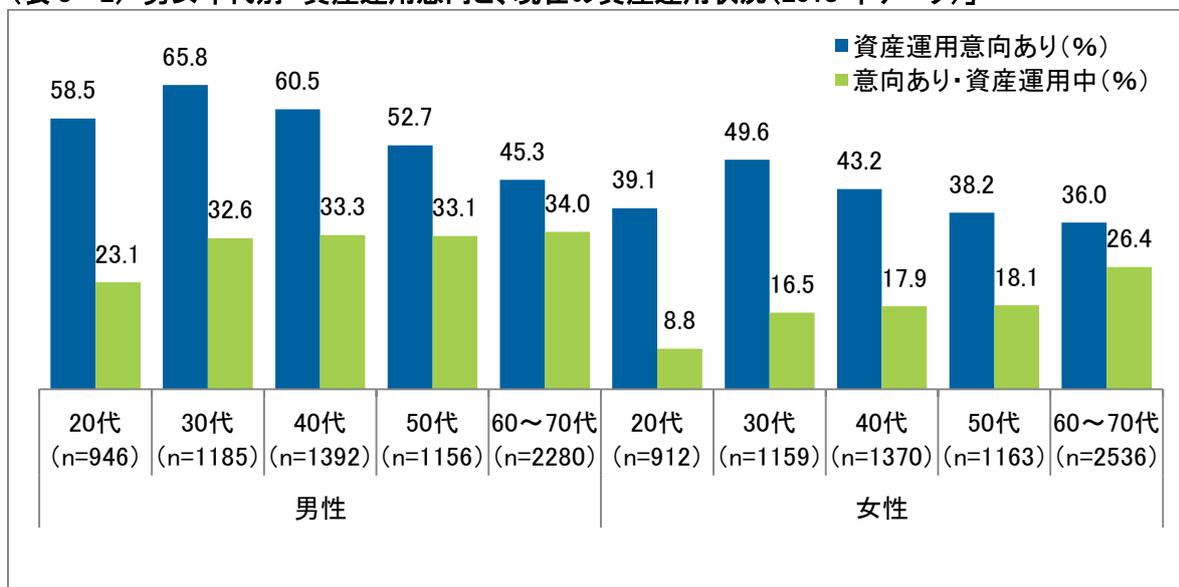
「資産運用意向がある」と回答した方と、「資産運用意向があり、現在資産運用中である」と回答した方を、男女年代別に、2019年(表3-1)と2018年(表3-2)で示した。「資産運用意向がある」と回答した方の割合は、対前年比で、20代～50代で高い傾向が見られた。一方で、「資産運用意向があり、現在資産運用中である」と回答した方の割合は、対前年比で30代～40代男性は増えたが、「資産運用意向」の伸びが見られた20代～30代女性については「資産運用中」に変化がなかった。

(次頁、表3-3)では、「資産運用意向があるが、資産運用をしていない理由」について聞いた。(表3-1、2019年データ)で、「資産運用意向がある」と回答した方と「資産運用中である」と回答した方の差が比較的大きかった20代～40代の女性の理由をみると、「何から始めれば良いか分からない」、「損やリスクを取りたくないから」、「漠然とした不安があるから」、「金融や資産運用に関する知識がないから」などの割合が高く、金融リテラシーを高めるニーズがあると推察される。

(表3-1)「男女年代別 資産運用意向と、現在の資産運用状況(2019年データ)」



(表3-2)「男女年代別 資産運用意向と、現在の資産運用状況(2018年データ)」



(表 3-3)「資産運用をしていない理由 (2019 年データより)」

		何から始めればよいかわからないから(%)	損やリスクを取りたくないから(%)	漠然とした不安があるから(%)	金融や資産運用に関する知識がないから(%)	運用するほどの貯蓄がないから(%)	資産運用の選択肢が多すぎて何を選べばよいか分からないから(%)	良い金融機関がわからないから(%)
男性	20代	35.3	26.5	24.1	27.3	36.3	17.3	17.8
	30代	38.0	39.0	24.1	37.1	39.8	21.0	19.2
	40代	37.5	35.3	18.1	34.7	40.9	15.3	16.2
	50代	25.4	39.4	28.3	28.9	44.8	15.3	9.8
	60~70代	15.1	45.3	26.2	27.9	42.0	18.6	11.5
女性	20代	52.6	49.8	40.8	40.6	38.8	29.6	23.6
	30代	54.0	46.7	35.0	44.0	39.1	33.0	23.4
	40代	52.5	46.7	27.6	42.8	47.1	27.5	28.5
	50代	40.8	45.1	27.3	40.0	46.2	30.8	18.2
	60~70代	22.0	51.4	20.7	37.1	40.6	19.4	12.2

#### (4)金融資産の使い道について

金融資産の使い道については、全年代において「老後の生活費用」の占める割合が高い結果となった。

年代が上がるごとに高くなる傾向が見られたのは、「自分の介護費用」であった。また、「親の介護費用」については、20代～50代までの各年代で使い道とされていたが、いずれも自分の介護費用よりは低い傾向が見られた。「将来病気になった場合の治療費用」が特に30代以上で高くなった。

(表4)「お持ちの金融資産の使い道について(複数回答可)」

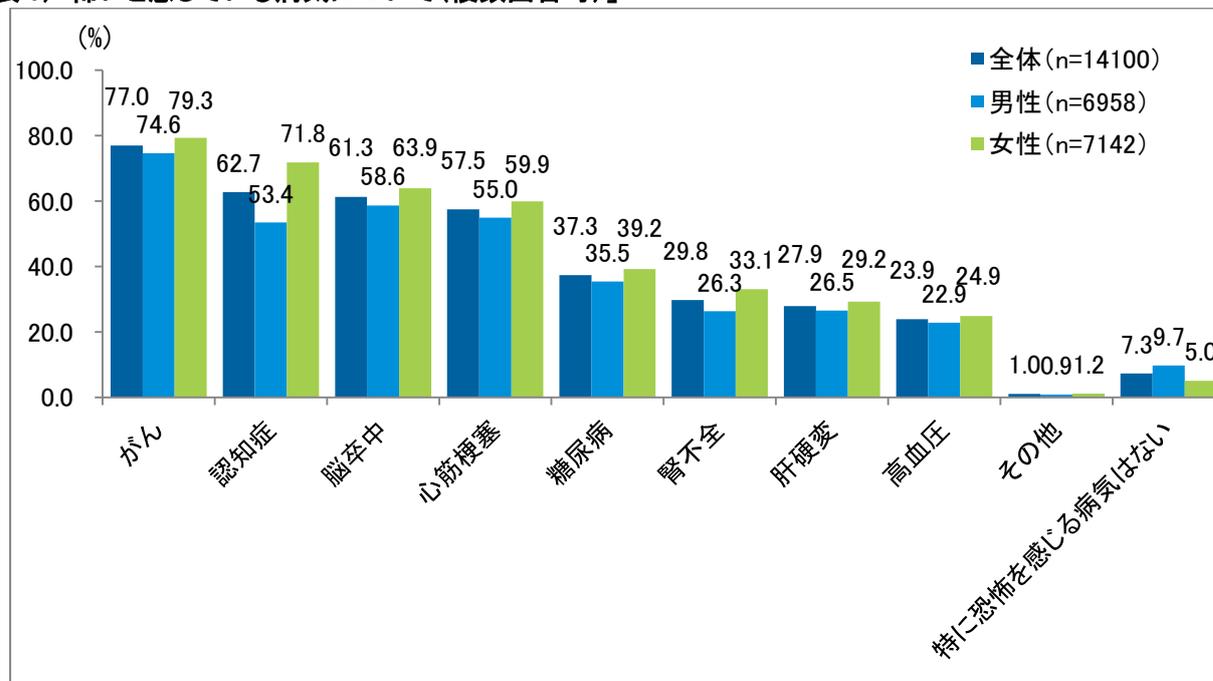
	20代	30代	40代	50代	60～70代
1	老後の生活費用	老後の生活費用	老後の生活費用	老後の生活費用	老後の生活費用
2	趣味	将来病気になった場合の治療費用	将来病気になった場合の治療費用	将来病気になった場合の治療費用	将来病気になった場合の治療費用
3	旅行	子供の教育資金	子供の教育資金	旅行	旅行
4	特に考えていない	趣味	旅行	趣味	自分の介護費用
5	将来病気になった場合の治療費用	旅行	特に考えていない	自分の介護費用	趣味
6	子供の教育資金	特に考えていない	趣味	特に考えていない	特に考えていない
7	住宅購入	自分の介護費用	自分の介護費用	車の購入	車の購入
8	車の購入	車の購入	車の購入	持病の治療費用	持病の治療費用
9	自分の介護費用	住宅購入	親の介護費用	子供の教育資金	相続
10	親の介護費用	親の介護費用	住宅購入	親の介護費用	孫の教育資金

## 【健康への意識】

### (5) 怖いと感じている病気について

「怖いと感じている病気」は、(表5)のように「がん」がもっとも高く、次いで「認知症」であった。

(表5)「怖いと感じている病気について(複数回答可)」



(6) がんにかかった場合の不安要因について

(表5)で「怖いと感じている病気」1位の「がん」について、「がんにかかった場合の不安要因」を聞いた。今回の調査には、がんへの罹患をご経験の方にもご協力いただいた。がんへの罹患をご経験の方(850人ご回答)※の不安要因で最も割合が大きかったのは、「治療費の負担」、次いで、「日常生活を問題なく送れるサポートが得られるか」、「精神的な負担」、「最適な治療法を選ぶことができるか」、「家族との人間関係」、「仕事と治療の両立」という結果となった。

(表6)「がんにかかった場合の不安要因(複数回答可)」

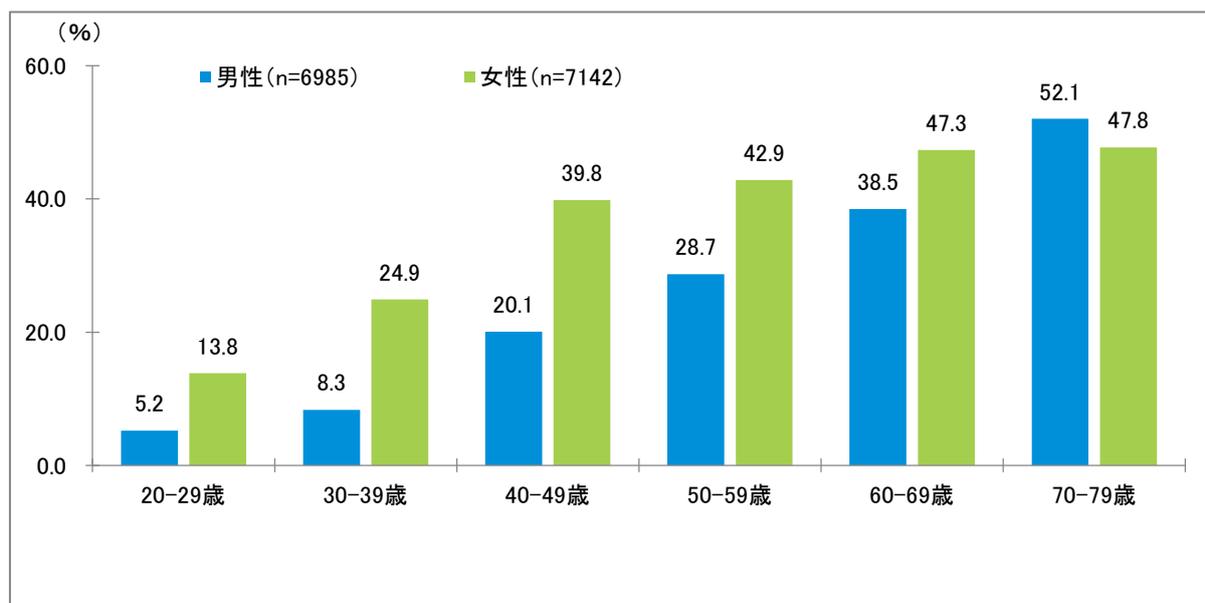
	治療費の負担	日常生活を問題なく送れるサポートが得られるか	精神的な負担	最適な治療法を選ぶことができるか	家族との人間関係	仕事と治療の両立	家族以外との人間関係
がんへの罹患をご経験ありの方 (治療中もしくは完治済みの方) (n=850)	49.7%	44.2%	41.8%	39.3%	17.7%	15.8%	8.4%
治療中 (n=365)	55.6%	44.5%	50.2%	41.7%	21.7%	17.1%	12.5%
完治済み (n=485)	45.2%	44.0%	35.4%	37.5%	14.8%	14.9%	5.3%

※本調査にご協力いただいた、がん罹患のご経験のある方(850人)：男女比(男性49.0%、女性51.0%)、年齢構成(20代3.0%、30代3.4%、40代9.3%、50代19.5%、60~70代64.8%)、状況(治療中43.0%、完治済み57.1%)

## (7)がん検診受診経験について

(表 5)において、「怖いと感じている病気」1 位である「がん」について、(表 7「参考データ」)では、「1年以内のがん検診受診経験」※1を聞くと、20歳～69歳の女性(6,549人)※2の中で36.3%、40歳～69歳の男性(6,236人)※2の中で21.8%であった。

(表 7「参考データ」)「1年以内のがん検診受診経験がある方」



※1 厚生労働省「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」(平成 20 年 3 月 31 日付け健発第 0331058 号厚生労働省健康局長通知別添)では、「肺がん検診 (40 歳以上)」「大腸がん検診 (40 歳以上)」が年 1 回、「胃がん検診 (50 歳以上)」、「子宮頸がん検診 (20 歳以上)」、「乳がん検診 (40 歳以上)」が 2 年に 1 回を指針で定めている。

(表 7)「がん検診受診経験」は、本調査にご協力いただいた皆さまのご回答を元にしたものであり、実際にお受けになった検診内容が、「がん検診」にあたるかどうかは、本調査からは判断がつかかねるため、「参考データ」とした。

※2 「がん対策推進基本計画」(平成 24 年 6 月 8 日閣議決定)に基づくがん検診の受診率算定対象年齢より、本調査ではがん検診の種類によらず、男性は 40 歳～69 歳、女性は 20 歳～69 歳を対象とした。

## (8)がん検診を受診していない理由

(表7)で「がん検診を受診していない」と回答した方のうち、40歳～69歳<sup>※1</sup>(5407人)を対象に、「がん検診を受診しない理由」を聞くと、男女ともに「お金がかかる」、「特に理由はない」、に次いで、「受診する機関を探したり予約の手続きをするのが面倒」という理由が上位となった。

(表8)「がん検診を受診しない理由」

男性(40歳～69歳)(n=2894人)		女性(40歳～69歳)(n=2513人)	
お金がかかる	34.8%	特に理由はない	30.6%
特に理由はない	32.9%	お金がかかる	28.7%
時間がない	19.9%	受診する機関を探したり予約の手続きをするのが面倒	24.6%
受診する機関を探したり予約の手続きをするのが面倒	19.0%	時間がない	15.8%
怖い	6.4%	怖い	11.3%
自分は健康で悪い所がないと思うから	4.8%	自分は健康で悪い所がないと思うから	7.2%
痛そう	3.7%	痛そう	6.7%
その他	3.5%	その他	5.5%
恥ずかしい	1.1%	恥ずかしい	3.1%

\*\*\*\*\*

### 【ご参考】「がん検診」について

2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなっていると言われ<sup>※2</sup>、科学的根拠に基づくがん検診の受診や精密検査の受診は、がんの早期発見・早期治療につながることから、受診率向上および精度管理のさらなる充実が必要であるとされている。

メットライフ生命では、保険契約の被保険者とそのご家族を対象に「商品付帯サービス」として、胃がん、乳がん、大腸がん、PET検診などの検診施設を無料で予約手配し、検診内容・検診方法のご相談をお受けする「早期発見サポートダイアル」を提供している<sup>※3</sup>。「がん検診」の受診にあたり感じられるペインポイント(検診内容・検診方法への不安など)に配慮したり、利用者の立場に立って利便性をより良く改善するなど、早期発見をサポートするサービスの充実をはかっている<sup>※4</sup>。

※1 「がん対策推進基本計画」(平成24年6月8日閣議決定)に基づく、がん検診の受診率算定対象年齢。

※2 「がん対策推進基本計画」(平成30年3月)より。

※3 商品付帯サービスは保険商品に付帯され契約後にご使用いただけるサービスです。これらの商品付帯サービスは2019年11月時点のものであり、将来予告なく変更もしくは中止される場合があります。これらの商品付帯サービスはメットライフ生命が委託ないし提携する各サービス会社が提供します。いずれも保険契約による保障とは異なります。サービスにより生じた損害・損失については、メットライフ生命では責任を負いかねます。ご利用の際には諸条件があり、ご要望に沿えない場合があります。

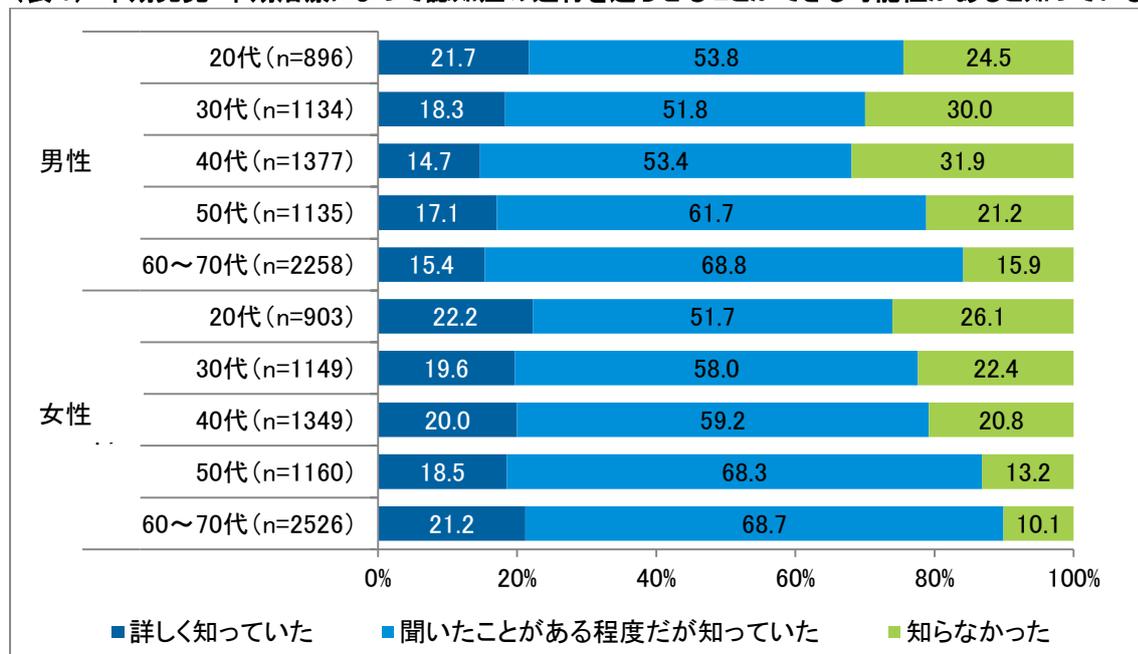
※4 契約者向け、健康に関する商品付帯サービスを大幅拡充(2019年10月16日付プレスリリース)

<https://www.metlife.co.jp/content/dam/metlifecom/jp/corp/pdf/about/press/2019/191016.pdf>

## (9) 認知症について

認知症に関し、「早期発見・早期治療によって認知症の進行を遅らせることができる可能性があると知っていましたか」という質問に対し、「知らなかった」と回答した方は、30代～40代男性で約3割であった。

(表9)「早期発見・早期治療によって認知症の進行を遅らせることができる可能性がある」と知っている

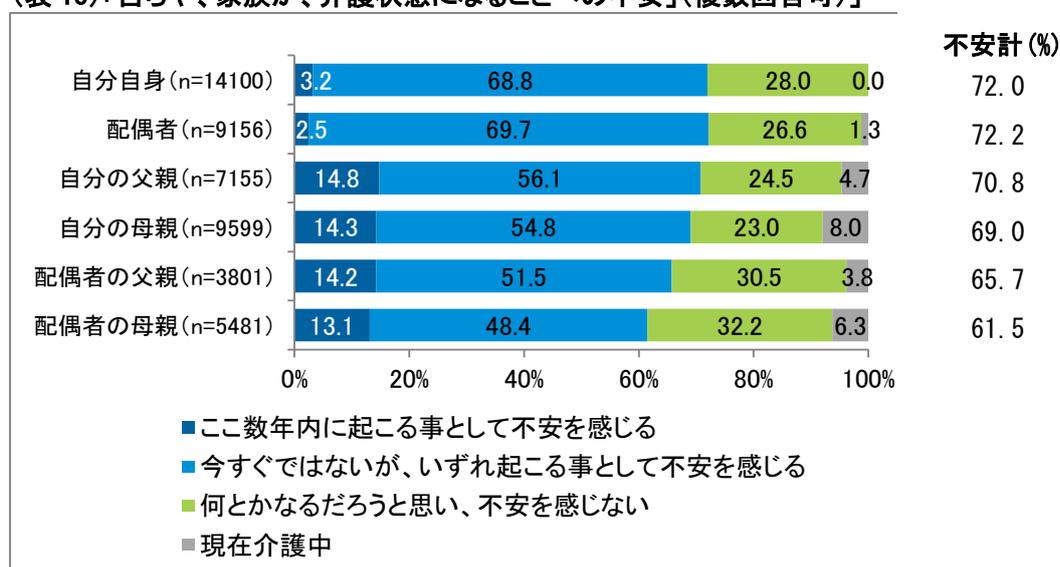


## (10) 介護状態になることへの不安について

今回の調査対象者(14,100人)の中には、「現在介護中である方」と「現在は介護中ではないが、過去に介護のご経験がある方」が、3,140人(全体の22.3%)含まれていた。

(表2)では、自らや家族の介護は、老後の不安要因として高い傾向が見られた。そこで、(表10)では、「自らや、家族が、介護状態になることへの不安」について聞いた。それぞれの質問は、配偶者が居る方、自らの父親・母親がご存命の方、配偶者の父親・母親がご存命の方を対象にご回答いただいた(n数は、それぞれの対象人数)。「ここ数年内に起こることとして不安を感じる」方と「今すぐではないが、いずれ起こることとして不安を感じる」方を合わせると、約7割であった。

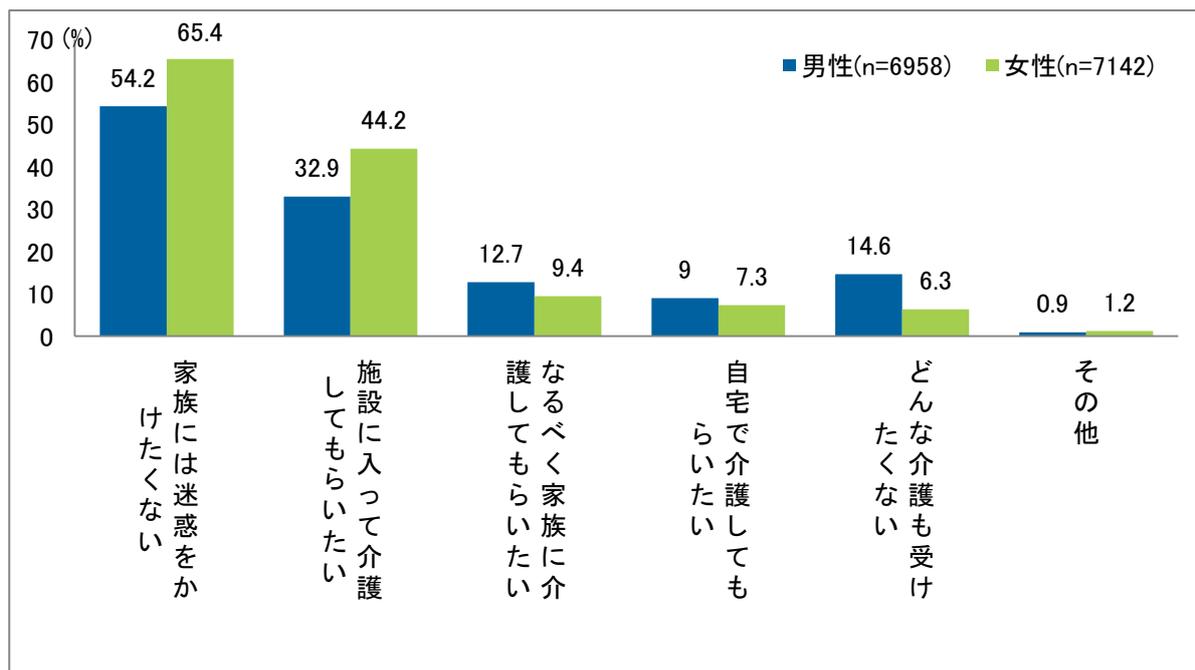
(表10)「自らや、家族が、介護状態になることへの不安」(複数回答可)



## (11) 自らが介護状態になった時の介護について望むこと

(表 11)では、調査対象全体(14,100 人)に、自らが介護状態になった時の介護について望むことを聞いたところ、男女で差が認められた。「家族に迷惑をかけたくない」と「施設に入って介護してもらいたい」は、女性が高い一方で、「なるべく家族に介護してもらいたい」、「自宅で介護してもらいたい」は、男性が高い傾向が見られた。また、男性は、「どんな介護も受けたくない」という回答も高い傾向があった。

(表 11)「自らが介護状態になった時の介護について望むこと」



\*\*\*\*\*

### ご参考 「介護に関する不安について」

当社は、保険商品による「介護」の備えのためのサポートに加え、「商品付帯サービス」として、保険契約者の被保険者とそのご家族を対象に、介護に関するご相談などにヘルスカウンセラーが無料でお答えする「介護相談デスク」を「健康生活サポートダイアル」の中で提供している※。

※ 契約者向け、健康に関する商品付帯サービスを大幅拡充(2019年10月16日付プレスリリース)

<https://www.metlife.co.jp/content/dam/metlifecom/jp/corp/pdf/about/press/2019/191016.pdf>

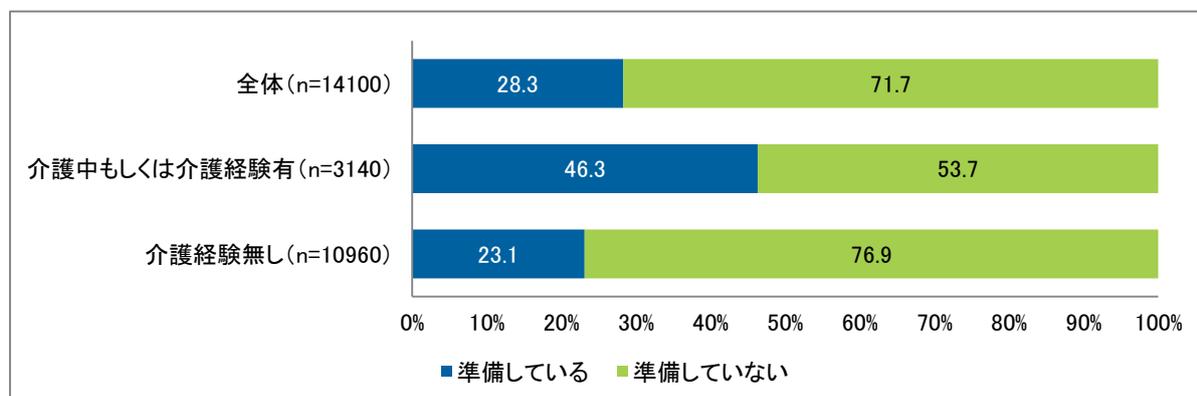
※ 商品付帯サービスは保険商品に付帯され契約後にご使用いただけるサービスです。これらの商品付帯サービスは2019年11月時点のものであり、将来予告なく変更もしくは中止される場合があります。これらの商品付帯サービスはメットライフ生命が委託ないし提携する各サービス会社が提供します。いずれも保険契約による保障とは異なります。サービスにより生じた損害・損失については、メットライフ生命では責任を負いかねます。ご利用の際には諸条件があり、ご要望に沿えない場合があります。

## (12) 自らの介護費用の準備状況について

(表 2)の老後の不安要因の一つとして、「自らの介護費用」が全年代で高い結果であったことから、(表 12-1)では、「自らの介護費用の準備状況」を聞いた。調査対象者全体(14,100人)のうち、「自らの介護費用の準備をしていない」方は、全体の7割以上(71.7%)。「介護中もしくは介護経験のある方」(3,140人)は、約半数の46.3%(1,454人)が、「自らの介護費用の準備をしている」と回答。ご自身の介護経験から備えをされていると推察される。

(表 12-2)では、(表 12-1)で「自らの介護費用を準備している」と回答した方(28.3%)の「準備金額」を示しており、300万円以上と回答した方は、調査対象者全体(14,100人)のうち、16.0%であった。(表 12-3)で、準備していると回答した方(28.3%、n=3,987人)の「準備金額」を男女差、年代差を見ると、男女で差はほとんど無く、年代が上がるにつれ、「準備をしている」と回答した方の人数と、「準備金額」ともに増える傾向が見られた。また、「介護中もしくは介護経験のある方」の「準備金額」は、「介護経験の無い方」と比べると多い傾向が見られた。

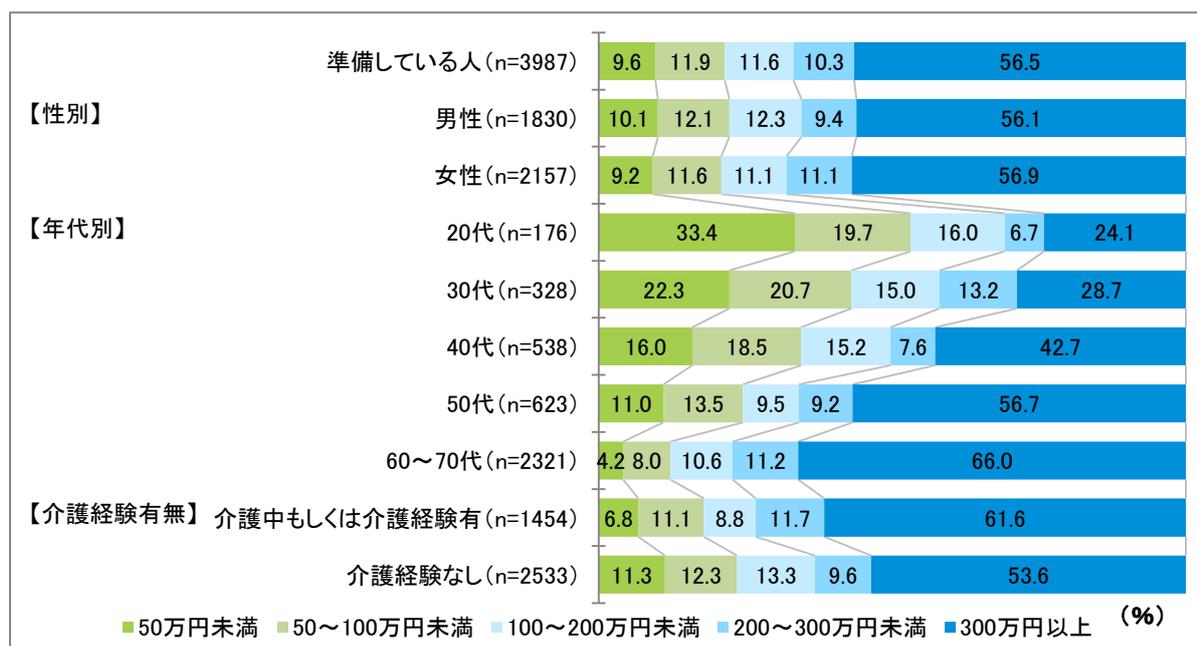
(表 12-1)「自らの介護費用の準備状況」



(表 12-2)「自らの介護費用の準備状況と、準備金額」



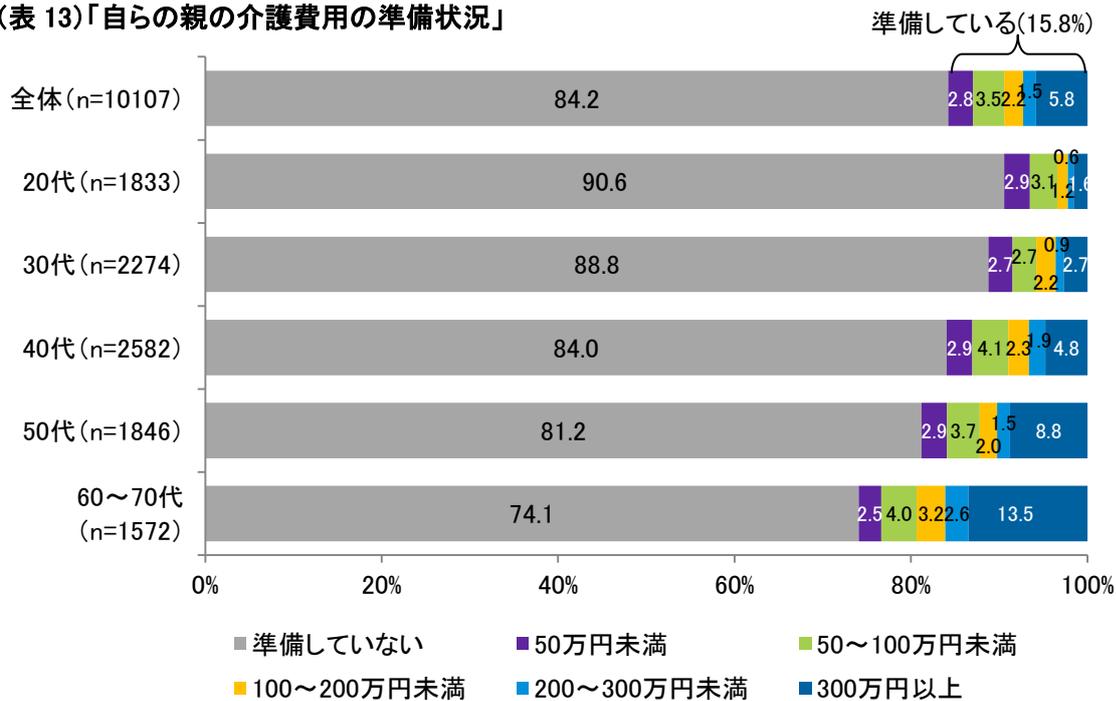
(表 12-3)「自らの介護費用を準備していると回答した方の準備金額」



(13) 自らの親の介護費用の準備状況について

(表 10)で、「自らの親の介護」に対する不安度が約 7 割と高く、また、(表 4)では金融資産の使い道として、「親の介護費用」が 20 代～50 代で選ばれていたことから、(表 13)では、「自らの親の介護費用の準備状況」を聞いた。親がご存命の方 (10,107 人)のうち、「自らの親の介護費用を準備している方」は、約 16% (15.8%) であった。また、介護費用を 300 万円以上準備している方は、5.8%。

(表 13)「自らの親の介護費用の準備状況」



\*\*\*\*\*

**ご参考 「介護期間と介護費用について」**  
 公益社団法人生命保険文化センターの「生命保険に関する全国実態調査(平成 30 年)」によると、介護に要した期間(介護中の場合は経過期間)は、平均 54.5 ヶ月(約 4 年 7 ヶ月)とされており、また、その期間中にかかる介護費用は、平均約 494 万円とされている\*。  
  
 ※公益社団法人生命保険文化センター「生命保険に関する全国実態調査(平成 30 年)」をもとに、当社にて算出。  
 「一時費用(平均約 69 万円)+月々の費用(平均約 7.8 万円)X 介護期間(平均約 54.5 ヶ月)=介護費用(平均約 494 万円)」

## <都道府県版>

### ■ 【老後への意識】

「老後に対する不安がある・ややある」と回答した方の不安要因を、47都道府県別に見ると、不安要因の順位には都道府県により違いがあったものの、「お金」、「健康」、「自らの介護」、「認知症」、「両親の介護」、「配偶者の介護」などが上位となった。

※老後不安度＝「老後について不安である・やや不安である」のスコアを足したもの(全体 81.5%)

	老後不安度※	不安要因						
		お金	健康	自らの介護	認知症	両親の介護	配偶者の介護	終活
北海道	84.7%	72.5%	62.2%	46.1%	46.7%	36.0%	29.6%	24.4%
青森県	83.8%	77.2%	62.9%	52.3%	55.2%	33.0%	34.1%	24.2%
岩手県	86.3%	70.0%	55.7%	50.9%	51.9%	44.6%	37.7%	23.1%
宮城県	86.3%	72.3%	60.6%	55.0%	57.4%	37.4%	36.3%	32.8%
秋田県	81.4%	71.3%	60.7%	52.9%	52.8%	39.4%	32.2%	28.2%
山形県	91.9%	67.3%	60.8%	54.0%	49.5%	35.4%	36.2%	32.1%
福島県	87.8%	70.6%	60.5%	47.2%	52.0%	35.3%	32.2%	29.7%
茨城県	83.2%	67.6%	55.9%	51.4%	51.5%	34.0%	33.5%	28.1%
栃木県	81.9%	72.3%	57.9%	48.0%	56.6%	39.6%	35.5%	30.3%
群馬県	83.9%	71.4%	60.0%	50.3%	45.8%	31.8%	27.8%	28.8%
埼玉県	81.8%	72.0%	62.3%	48.4%	50.5%	41.0%	33.7%	33.3%
千葉県	80.5%	71.3%	62.4%	50.2%	59.6%	34.7%	33.5%	31.7%
東京都	77.6%	70.2%	62.1%	51.1%	48.1%	37.4%	32.4%	24.6%
神奈川県	80.4%	69.6%	56.6%	51.4%	50.4%	43.1%	37.8%	31.9%
新潟県	82.7%	69.5%	63.4%	55.3%	58.5%	42.5%	33.3%	27.2%
富山県	86.6%	69.9%	61.8%	52.3%	48.4%	40.7%	36.6%	29.4%
石川県	83.6%	68.1%	57.7%	49.6%	51.3%	32.5%	31.8%	28.2%
福井県	83.2%	69.5%	65.5%	54.6%	52.8%	37.7%	38.0%	29.9%
山梨県	86.8%	67.4%	58.6%	56.6%	56.5%	34.5%	33.9%	30.3%
長野県	84.6%	75.9%	67.4%	52.6%	51.7%	36.9%	37.9%	25.2%
岐阜県	83.7%	72.1%	59.7%	49.0%	55.2%	41.0%	37.0%	24.2%
静岡県	83.3%	67.4%	57.0%	48.3%	53.1%	31.9%	32.7%	31.9%
愛知県	80.3%	69.1%	58.2%	50.9%	54.6%	44.0%	41.4%	29.9%
三重県	78.2%	68.7%	57.1%	49.2%	55.0%	34.7%	36.7%	33.2%
滋賀県	81.8%	65.9%	57.6%	55.5%	54.8%	37.6%	43.7%	27.3%
京都府	82.2%	71.8%	58.8%	47.8%	52.7%	39.0%	36.1%	28.5%
大阪府	76.0%	73.6%	61.1%	55.6%	49.4%	35.0%	27.6%	28.8%
兵庫県	79.6%	71.5%	58.6%	49.3%	52.0%	33.2%	33.0%	29.2%
奈良県	82.9%	66.6%	58.3%	46.9%	54.8%	40.3%	34.3%	31.9%
和歌山県	85.2%	65.2%	53.6%	51.7%	48.4%	29.0%	32.0%	23.1%
鳥取県	84.2%	73.1%	59.2%	53.5%	56.9%	43.4%	35.6%	22.1%
島根県	80.0%	67.3%	55.8%	47.6%	44.2%	44.2%	34.2%	21.7%
岡山県	82.1%	65.8%	61.9%	49.2%	54.1%	43.4%	35.0%	27.4%
広島県	81.5%	72.7%	62.2%	51.2%	50.2%	35.7%	34.7%	25.5%
山口県	83.4%	76.1%	57.6%	54.4%	55.1%	32.6%	37.1%	30.4%
徳島県	80.9%	72.6%	58.1%	50.2%	55.4%	35.7%	37.5%	32.2%
香川県	80.3%	72.7%	63.9%	52.9%	47.6%	41.0%	37.7%	22.0%
愛媛県	83.1%	66.1%	58.7%	53.0%	49.3%	40.2%	38.1%	31.0%
高知県	84.0%	66.2%	60.6%	45.8%	54.0%	34.2%	25.7%	27.4%
福岡県	82.8%	70.0%	58.7%	47.8%	47.8%	40.2%	30.9%	26.6%
佐賀県	84.2%	68.0%	60.2%	41.7%	47.5%	35.0%	27.7%	30.3%
長崎県	88.9%	72.7%	63.9%	48.2%	53.6%	34.3%	28.8%	25.7%
熊本県	81.8%	74.1%	56.9%	48.4%	53.0%	39.5%	28.3%	33.1%
大分県	83.1%	71.4%	57.0%	47.4%	50.5%	38.3%	34.5%	32.0%
宮崎県	82.1%	74.5%	58.9%	46.8%	53.7%	33.7%	33.4%	26.5%
鹿児島県	84.8%	73.1%	57.5%	47.3%	49.2%	42.8%	31.6%	24.4%
沖縄県	82.9%	75.4%	58.1%	54.8%	49.2%	37.6%	29.8%	33.4%
全国平均	81.5%	70.8%	60.0%	50.5%	51.6%	37.9%	33.8%	28.7%

### **「老後を変える」取り組み**

当社は「老後を変える」というテーマのもと、健康で豊かな老後を過ごせること、また誰もが明るく豊かな老後を思い描くことができることを目指しています。「老後を変える 全国47都道府県大調査」の実施、産・官・学・民が連携し明るく豊かな人生100年時代に向けた議論を重ねる場づくりなど、さまざまな取り組みをしています。<https://www.metlife.co.jp/changerougo/about/>

### **メットライフ生命について**

メットライフ生命は、日本初の外資系生命保険会社として1973年に営業を開始し、現在は世界有数の生命保険グループ会社、米国メットライフの日本法人として、お客さまに常に寄り添い、最適な保障を選ぶお手伝いをしています。多様な販売チャネルを通じて、個人・法人のお客さまに対し幅広いリスクに対応できる、革新的な商品の提供に努めています。<https://www.metlife.co.jp>